

令和6年度「市民と議会の対話集会」記録

総務企画委員会

- 開催日時 令和6年11月6日（水）18：30～20：30
- 開催場所 苗木交流センター ホール
- 懇談先 市内13地区の消防団地区分団役員及び団本部役員
（地区分団代表各1名、団本部役員3名）
- 出席議員 総務企画委員
宮嶋寿明（委員長）、岡崎隆彦（副委員長）
田口文数、吉村浩平、木下律子、島崎保人、松崎 誠
- 懇談テーマ 消防活動の現状と課題について
- 懇談内容 消防団員の減少による影響と対策について

団本部

- ・団本部の動きとしては、各地区分団に団員の募集をお願いしているので、それぞれがアイデアを出してチラシを作ったり動画を作ったりしている。
- ・団本部の役員が縁故を使って家族を入れたり親戚の子に声を掛けたりもしているが、各地区分団の動きを尊重している。
- ・市長にもお願いしているが、職員として入庁したら3年ないし5年は消防団員を経験し、退職金が出る時点で退団するか継続するかを判断する。有事の際には器具を扱ったことがあれば、退団をしてからでも使えるのではないかと。男性女性に限らずお願いしており、今も各地区から団本部に上がってきた職員の方に活躍してもらっている。

中津分団

- ・消防団員の減少は、如実に表れ年々減っており、熱心に活動していただける方の年齢が上がってきているため団歴も長く高齢化している。
- ・部での火災や活動時では、経験のある方が頼りになるので、その人達への負荷が多くなっている。
- ・昔の消防団員は、自営業の方が多かったが今はサラリーマンが多く時間が取れないため、若い人の現場での経験も少なくなり、消防団の中での人間性の関係も薄くなっている。
- ・危険な場面を経験させ覚えてもらいたいのが、現状では出来ないのでは操法の練習などを通じて人間関係を作ることを各部で試行錯誤しているのが現状です。

苗木分団

- ・イベントには出してもらえが、火災や捜索など有事の際に人が集まらない。
- ・団員は減少しており負担を減らしたいと考えている。新入団員が入らないので、現団員に長く居てもらうことも考えている。ネックは操法なので、なるべく少ない練習回数にしたい。また、操法の代わりに年6回の放水訓練などに参加してもらおう計画をしている。
- ・今後は地域や学校に役職の免除をお願いする計画をしている。

坂本分団

- ・昨年から10名減っているが次の人が見つからない。区長さんには不足する団員数を伝え、改めてお願いして増やしていきたい。2年毎に交代することもあり、人が育たず古い人達ばかりになってしまうので、6年以上続けてもらう様にしたい。現在は個別にお願いし引き留めることをしている。
- ・地区で手当を出しているところもある。

落合分団

- ・操法を物凄く頑張り、5年前と3年前に県大会に行き毎日のように一生懸命やったが、現在50名のうち次の日曜日の秋季訓練は15名しか出てこない。一生懸命やるのが時代に合っていないのではないか。
- ・今の小学校は20人程度で男の子は半分。そのうち落合に残るのは3人しかいない。10年で30人として、毎年のように勧誘しても半分は来ないでくれと言われ、次年に半分の人を勧誘すると来ないでくれと言われ、頑張れば頑張るほど悪循環になっているのが現状です。

阿木分団

- ・9月初旬の火災で初期に出動したのが6名、鎮火後の片付けに居たのが8名だったので、昼間の団員の少なさを感じた。
- ・以前の操法大会は、エースを育てるような形でやっていたが、今年は操法が出来ない人を育てる事にして、新団員を中心に誰でもどこでも出来る形をとった。
- ・秋季訓練は、直結にして連送系で人数を減らしても出来る訓練にして、操作を覚えて貰うことに取り組んでいる。
- ・課題は人口が減っており、若者が1～2人残る程度でどこに居るのかもわからないので、区長会に教えてもらえないか話してみたい。

神坂分団

- ・現在の団員数は58名、大体出てくれるのが30名程度です。今年2名入団したが、1名は知らないうちに名古屋に転居していた。最近はその様な人が多く、訓練があっても用事があると断られる。古い団員も階級が上がるにつれ辞めたいと言われるが説得をしている。
- ・先月にはポンプ車と可搬ポンプを皆が使える様にすることを掲げ、水出し訓練を行った。
- ・秋季訓練は火災想定訓練として、グーグルマップに水利を表示したものを前分団長がホ

ホームページに作ったので、それを完成させて水利を確認する訓練を行う。それに若い人が出てくれば有難い。

- ・課題は勧誘に行っても親が本人に合わせてくれない。事情を説明しても無理なので、街で本人に出会ったときにしか直接話ができない。

山口分団

- ・一番小さい分団で人口が減少する中での勧誘は難しいと感じている。
- ・他の分団と同じように新入団員の確保に苦勞する中で、子供たちに消防団が楽しいことだと思ってもらうために、マスカミなどのイベントを行っている。将来的に地域を大事にする気持ちを育てることが一番と考えており、報酬などではなく地域を好きになってもらいたい。
- ・市の学校統合の計画を見ると、人口が減っているので仕方ないが、団員を増やす事とは逆行しているように感じる。
- ・過疎の地域は消防署にお願いするしかないのではないかとも思うが、諦めたくないので10年後20年後を考えてやっている。

坂下分団

- ・4月に5名の新入団員が入った。
- ・昨年までは4部8班で活動していたが、班で10名以下になる所もあり、今期から4部体制として10～20名弱で活動。分団本部を含めると約90名。このうち操法大会や祭の警備など主な活動への参加が60名程です。
- ・団員不足について1～2年前から区長会との話し合いを設けており、自治会にも話をしてもらい、消防団員の自治会役員免除をお願いしている。
- ・若い人のリストを提供してくれる自治会もあるが、勧誘に行っても本人に会えず門前払いの所もある。
- ・今年度は区長会会長が交代したので、改めて話し合いをする予定です。

川上分団

- ・人口が600名程度と非常に少なく、団員の確保が困難な中で3名入団があったが1名は息子です。何処に誰が居るか把握できており、普段から話をしてきて入団対象となる若者4～5名のうち3名だった。次は2～3名程度だが地元に残るかもわからないし、転居して来られる方は高齢な方が多く勧誘できない。
- ・操法は嫌ではなく楽しみながら行っていきたい。今年は3名の新人を番員にしたが、スポーツ感覚で楽しかったと言ってくれたが、以前の操法しか知らない親には今の操法を説明しても受け入れられない方も居る。火災や人探しなどの有事が殆どなく、消防＝訓練のイメージが強く理解できないかもしれない。若者同士でお願いもしているが、交代勤務では出動できない事が多く、お互いに後で困るので無理に勧める訳にもいかない。
- ・坂下や山口と一緒にいることを団長とも話した事があるが、団員と話をするとうつの分団になる事への抵抗感もあり、慎重に進めていかなければならない。

加子母分団

- ・現在の団員は86名で、これまでは3部制で10班の体制でしたが、団員の減少により3部制で活動している。今は役をやった方にも残ってもらい維持しているが現状。今年は2名の入団があったが、入団する年齢の方が実際はあまり居ない。
- ・要望になってしまうが、部の体制になったことにより本部の2部の詰所が今年度整備されるが、1部と3部の拠点が無いのでなるべく早く整備していただきたい。
- ・研修などを一か所に集まるのではなく、各詰所で行うことで負担を減らすことができるので、それぞれの詰め所にWi-Fiを整備してもらいたい。

付知分団

- ・他の分団と同じように若い人が入ってくれない。誘った時は入ってくれると言ったが、後で断られる事もある。
- ・若い人がどこに居るのかわからないので、区長会にお願いに行く予定であり、入りたいと思ってもらえるようにしたい。
- ・部ごとでポンプ車の扱いが違うので、秋季訓練では解っている人に教えてもらう様にする。

福岡分団

- ・今回県大会に出場した高山地区は35人おり、平均の出動は26～30人くらいでした。一方で少ないときは17人くらい、操法の練習をしようとしても10人集まらないときもあった。分団の中では半分くらいが消防団＝操法で、操法は嫌だが操法以外の活動には積極的になれる部分大きい。皆さんと同じように操法ありきでの消防団の活動をしてきた中で、今の世代にそれを説明できないのが現状。元消防団員宅に勧誘に行っても、子供にはやらせないと断られ本人にも会えない。なかには勧誘を察知して外に出る方や、結婚を機に出る方も居るが、それを食い止めることもできず、消防団が地元に必要なことをわかってもらえる活動が必要と思うが理解が得られていないのが現状。
- ・今回の県大会で13分団へのお願いや地区で活動したことで、コミュニケーションや交友関係が深くなっていくことは目に見えてわかったが、同年代には伝わるが20代の若い人には伝わらなかった。団員をどうやって増やしていくか、お金の部分もあるがそれだけではないと感じる。消防団に入る事でのメリットは何かという感じでボランティア精神が全くないように見えてしまう。
- ・県大会直前の捜索にはたくさん出動してくれたが、操法になると仕事が有ると断られる。団員数136名ですが、実働は90名程なので40名が出てこない。このような方には声掛けしかないと思い、年1回でも良いから出てくれとお願いしているのが現状。

蛭川分団

- ・自分が最年長でその歳になると辞める流れがあるが、それを続けると将来危機的状況になってしまうと思っている。そろそろ辞められると思っている団員もおり、どうしていくかを幹部で模索している。

- ・勧誘は他と同じように、家族や奥さんに反対されることが多い。年報酬が個人支給であることを伝えても家族にはわからないので、例えば年報酬は市民税の減税で、活動費は個人支給にすると奥さんにも伝わるのではないかと個人的に考えている。

団本部A

- ・消防団員の減少については、有事の際に人数が居ないと新しい装備が入っても使いきれないことになってしまう。あてがわれた車両やポンプを取り扱える最低限の人数は必要と考えている。
- ・新入団員の勧誘については、「火災は消防署でしょ」と言われる方もみえるが、消防団員が減った分を消防署員で増やしたら、市の予算をどれだけ増やさなければならないかまでは考えていない。単純に消防団員が半分になった時に、消防署や消防職員を補充しようと市民税を上げて良いかと言うと、これ以上取られては困るとなるがそこまでの話にはならない。ここに居る団員は手当を目的にしている人はいないと思う。消防団員が減ったら消防署が困ることをもっとアピールできればと思う。
- ・メールやラインなど便利なものが発達したことで、地域のコミュニティが少なくなっている。自分は地域に知ってもらうために入団したが、近ごろは人との付き合いが少なくなってしまった。
- ・火災などで出動した際には、自身の立場として消防団の必要性を区長や班長に訴えてきたが、消防団＝操法になってしまっている。しかし、操法は火災のために行うものであり、そこを市民にどう理解してもらうかを考えるのが一番必要だと考える。

団本部B

- ・消防団に限らず他の団体でも若い人が入ってくれない。新入団員の勧誘に対して地区分団長は本当によくやってくれているが、若い人は面倒くさいと言って入ってくれない。
- ・出初め式に参加しやすいように土曜日にした。
- ・常備消防119名が市内全域をみており、分署には3人しかいないときがある。だから消防団が必要だということも、もっと説明しないといけない。また、操法は現場に行った時に必要であり、そのことも説明しないといけない。
- ・市にお願いしたいことは、消防団や消防署の活動の情報が他の市に比べ表に出てこない。もっと情報発信をしていただき市民に知ってもらいたい。自分が地区分団長の時には、小学校の授業に出向き活動を伝えることをした。その様な活動も参考にしてPRや情報発信をして欲しい。

団本部C

- ・出初め式を出やすい様にと土曜日にしたら、せっかくの休みに消防団で出なければいけないのかと言われた。一つひとつの行事について色々言われるが、年間で見たら日数は限られている。
- ・今年の出初め式の挨拶で、日航機の事故でCAが訓練をしてきたことで死者が出なかったことを例に、訓練の必要性を各団員にしっかり説明してほしいとお願いしたが、今の意見や13分団長会議で意見を聞くことを考えると、一般の団員や家族から「やはり操

法が」と言われるのであれば、もっと工夫をしながらやらないといけないが、火災現場で1分1秒でも早く消すために訓練をやらないといけないことは、分かっていたかなければならない。

- ・先日の検索でも福岡分団は土曜日にかかなりの人数が出てくれた。意識はあるがどうやっていくかが大変だと思う。国も芸能人を使った宣伝や、岐阜県も「いいね消防団」のカードによる割引、企業には県民税の割引など色々なことをやっているが、地域の人たちには私たちが溶け込んで行かなければならないと思っている。

【意見交換】

議 員：私も23年間団員を経験し息子も団員になっている。操法とお酒で友達ができ、地域のコミュニティになっており良い経験になっていると思う。自分も勧誘に行き断られたが、他市の事例ではSNSによる情報発信でイメージが変わる可能性もあると思う。消防団はカッコイイと思わすことも必要で、SNSでの情報発信はしていますか。

団本部：HPやインスタなどで発信しているが、忙しい中で行っているのが大会など時期は限られる。

議 員：消防署が行うことはできないのか。

団本部：人数も手一杯で今後指令センターに5人出さないといけないため、職員も増やさないと難しいと思う。警防課も消防団だけが仕事ではないので、消防団の中でやっていかなければならない。調べると他の消防団もあげている。

議 員：報酬や準中型免許取得の補助などの処遇改善をされているが、中々申し込みが無い。もっと発信していかなければいけない事を、皆さんの想いを聞いてわかったが難しいですね。

団本部：準中型免許の補助が全額の自治体もあるが、予算があるので全員は出来ない。一つの特典があることのPRもできるのではないかな。

議 員：中津川市は視察をしてきた地域よりもしっかりやっている部分が沢山あった。操法については、2～3年に1回や輪番でやっている所もある。当市はこれまでのやり方で行くということで、私もそのようにと期待しているが見解は如何でしょうか。

団本部：東濃地区でも多治見は輪番でやっているし、県内では操法を辞めた所もある。飛騨市は出初め式など全部辞めたが、今回はやりたい人が手を挙げて1か月くらいの訓練で出てきたが結果は最下位だった。飛騨市の団長と話したが、面積が物凄く広いので、負担を減らすために4月の辞令交付式で一度にやってしまう事にしたとのこと。揖斐川町は新しい町長から操法大会を辞めるように指示があったが、代わりになる訓練をする様にも言われている。県内の44消防団30協会のうち、今回は23協会が出場したので7協会は参加しなかった。今回優勝した岐阜北は、前々回大失敗をしたリベンジで2

年間練習をして出場してきた。落合分団が言ったように、どこも一生懸命やった所はやりたくなくなるが、何年か経つとやりたくなくなる時が来る。浮き沈みのあるやり方では無く、訓練をしっかりとやって中津川市の安全安心を守れる消防団を作っていきたいと思っている。

議員（司会者）：各分団の話では、操法がネックとの話がメインになっていたが、輪番や選抜、何年に1回などの操法が増えていく事について、団長の前で話し難いかもかもしれないが、率直な考えを個人の意見として話してください。

中津分団：若い人たちの考えがわからないので、新入団員や退団した人の意見を聞く機会が出来れば私も聞きたい。

苗木分団：練習の過程は大事だが結果はどうでもよい。今回も断トツの最下位だったが気にしていない。ミスしても責めないし、練習不足だったなど言うだけです。

坂本分団：2年前から現場に行き誰でも出来るような訓練をしている。昨年県大会に行ったが、その時も多くの方に関わっていただいた。今年手伝いたくないと言う団員がいたが、これまでの長い付き合いでお願いして来てもらった。これからも人の繋がりを大事にしたい。

落合分団：操法は基本中の基本であって、火事があったその場で判断して動けるとは思わないので、そこに一生懸命になる必要はないと思う。地域で消防署を助けるなら実戦で動けないと駄目なので、今度の秋季訓練でやることは自己判断を大事にしたいと思っている。

阿木分団：消防学校は全部行かせてもらったが、操法を教えないと連携ができない。前から講習会をやっていたが、それだけでは出来ないとの結論を持っている。但し、大会が必要なのかは疑問を持っている。

神坂分団：消防学校の講習でなぜ操法が必要かを議論したが、なぜ競技化するのが疑問と意見をした。操法は基本中の基本なので必要と思うが、大会に向けた競技化した訓練が現状だと思う。

山口分団：操法は大事な事が詰まっております、やった方が効率に良い。大会もやれば良い。但し各分団の判断で、県大会に行きたい所は一生懸命やれば良い。

坂下分団：11年前から県大会に4～5回行っており自分も1回出場した。その時は夢中になって毎日練習していた。勧誘に行って「操法が」と言われるのは自分達のせいだと思うし、前分団長も同じ意見だった。訓練としては必要だが、競技にするのはおかしい。楽しくやる。

川上分団：やりたくないのではなく出来ない。半分以上が役付きで川上に住んでいない人もいて、1時間の会議のために瑞浪や坂本から来ている。行事に出る事に必死で、操法はその次です。

加子母分団：自分は狂ったように操法をやっていたが、自分のミスで火事場で怪我をさせてしまい、訓練は絶対必要と思っているが大会は疑問に思っている。

付知分団：夜間の火事で怪我人が無く火事が消せたのは、操法での訓練のおかげだと思うので操法は必要。

福岡分団：操法は大会も含めて必要と思う。操法を練習した結果の達成感を味わって欲し

い。但し訓練が重荷にならない様にするにはどうしたらよいか。団員が結託してボイコットする動きもあった。

蛭川分団：訓練も一生懸命出てきてくれ5チーム作ることもできた。既に来年のチームを考えている所もある。大会の中の緊張感も大事で、火災の中の緊張感に繋がっている所以大会は必要と思う。

議員（司会者）：皆さんの意見は、操法は大事で基本中の基本と言うことで、役員等経験豊富な方は分かっているが、若い方達との乖離、思いの違いに苦しんでいる様に思う。操法の実施方法については、今後、消防団で協議を進めていただければと思います。

議員：私が分団長の時に全国大会に行って、3月の終わりから10月まではほぼ毎日訓練をした。今ではできないと思う。ここ数年の操法を見ると団長も苦勞しているだろうと感じている。訓練の進め方は分団の意見を聞きながら団が決めているが、提言をするにあたって1点確認したい事がある。皆さんには報酬と手当が出ている。皆さんは手当のために活動している訳ではないが、出勤しなくても報酬はもらえる。もっと出勤手当を上げてはどうかと思う。

出勤4時間以上で8,000円だが、訓練は1日でも1,600円。これから訓練がメインになるのであれば、手当を上げて良いのではないかと。いわゆる幽霊団員との差を付けないと可哀想ではないか。その辺の考え方について団長はどのように思われるか。

団本部：国の出した指針に対して中津川市は違う。若い団員からもどうして差があるのかとの意見をもらっている。指針通り出していれば質問も無いし、もっと貰えている。手元に資料が無いが一回の手当は随分と差があったと思うので、調べて回答する。

また、これまでは団員だけで新入団員を確保してきたが限界がきている。市と議会と消防団が三位一体となって団員の数を増やすプロジェクトチームの様なものを立ち上げてもらえば、違った募集の方法が出てくるのではないか。無くてはならない団体を維持していくために皆で頑張っているのご理解いただきたい。

議員：非常に難しい課題であると思います。今後人口減少、少子高齢化がもっと進んで深刻な問題になる可能性があると思いますが、本日の皆さんの意見を参考に、消防団のイメージアップ、処遇改善など含めた中で市への提言に向けて協議を進めていきたいと思ひます。